

---

## 編集後記

---

はや5月となり、初夏の候となりました。先生方にはいよいよご清栄にてご活躍のことと存じます。

4月に実施された診療報酬改定は“常務理事会だより”にも記されているように、非常にきびしいものとなりました。日本透析医会としては、良質の透析医療を提供するために必要とする条件を今後もねばり強く主張し、要求し続けていくべきかと思えます。

お手元に日本透析医会雑誌15巻1号をお届けします。ごらんになるとわかりますように、今号から内容を一新しました。まず、雑誌のサイズが大きくなり、表紙も全く変えました。表紙の図案やロゴマークは広報委員会や常務理事会、印刷担当の三秀舎などが検討して決めたものです。ちなみにこのロゴマークは日本透析医会5周年記念に作製した図で、5周年と10周年の記念に会員に配布したテレホンカードにこれが入っていました。

雑誌の内容も優れた論文を多数いただき、充実したものとなり、ページも166頁と厚いものとなりました。論文の内容も多方面にわたっております。その一つ一つを紹介することは出来ませんが、医療制度、医療倫理、感染対策、透析医会、臨床と研究、研究助成論文、実態調査、支部だより、など13の論文を掲載しました。いずれもすぐれた内容ですのでご熟読下さい。感染対策については、昨年、某診療所で透析患者が院内感染によりB型劇症肝炎を発症し死亡したという事件がありましたが、兵庫県B型肝炎院内感染調査委員会から本年2月に詳細な調査結果報告書が出されました。本誌では特に許可を得て転載することが出来ましたが、貴重な報告書ですので、是非ご一読下さい。また、昨年11月21日に開催されたブラッドアクセストラブルに関するConsensus Conferenceでの発表内容(論文7編)も掲載しました。

このようにして、本誌は日本透析医会の機関誌としてその方向を指し示すものとなり、質の高い透析を行うための指標として必ずや先生方のお役に立つものと信じております。このために、多くの先生方がご多忙中にこのような優れた論文を執筆して下さったことに対して心から感謝しております。今後もハイレベルで有用な雑誌の発行を続け、日本透析医会の活動の源となるべく努力して行きたいと考えております。

本誌は年に3回発行することになっており、次号は本年8月に出す予定です。先生方からの論文のご寄稿を心からお待ちするとともに、今後とも一層の御支援をお願いします。

広報委員会委員長 飯田喜俊